

— 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。（設問の都合上、省略したところがあります。）

それは印象派の作品展で、*アテンドしていたのは松坂屋美術館（名古屋市）の男性スタッフ。何枚かの絵を見たあとに男性は、一枚の作品を前にして、「湖があります」と説明を始めた。そのあとに「あれっ！」と声をあげ、「すみません、^①黄色い点々があるので、これは湖ではなくきつと原っぱですね」と訂正した。男性は「自分は何度もその作品を見ていたはずなのに、ずっと湖だと思い込んでいた」と驚いている。

それを聞いた*白鳥さんも仰天した。

「ええ!? 湖と原っぱって全然違うものじゃないのって。それまで『見えるひと』はなんでもすべてがちゃんと見えているって思っていたんだけど、『見えるひと』も実はそんなにちゃんと見えてはいないんだ! と気がついて。そうしたら、色々なことがとても気楽になった」

そう、「見えるひと」が、「見えないひと」と一緒に作品鑑賞をすると、自分の思い込みや勘違いにたびたび気づかされる。普段、目が見える人々は、膨大な視覚情報にさらされながら生活しているのだが、細かい情報をすべて脳内処理することは不可能なので、目は必要な場所に注目し、必要な情報だけを取捨選択する。同時に必要のないものは視覚に入ってきてても脳内で処理されない。セレクトティブ・アテンションと呼ばれる認知の*バイアスの一種だ。

この種の認知バイアスを証明したとても有名な^②「ゴリラ」の実験がある。実験のために用意された動画の中では、黒いシャツと白いシャツを着たグループが狭い場所で動きながらそれぞれバスケットボールをパスし合っている。実験の参加者は、白いシャツを着たグループが何回パスしたかを数えるように求められる。動画の途中では、パスをする人々の間を着ぐるみのゴリラがゆっくりと横切っていく。

X

同様のことを哲学者の鷺田清一^{わしだきよかず}は著書の中でこう書いている。

わたしたちの通常の「見る」は、だから、とても貧しい。見るべく整えられたもの、つまりは見るべきものを見るだけで、あらかた過ぎてゆく。（中略）眼は意味あるいは記号に感応しているのであって、そこから「見る」ことの野生は脱落している。射るところか、さま

ようこと、たゆたうこと、まどろむことすら忘れた眼……。

見えるものにある^a **シヨウジュン**を定めるためには、そして見えるものに「世界」という秩序をあたえるためには、おそらくそうした
* エコノミーがどうしても必要なのだろう。『想像のレッスン』

だから美術館に足を運び、長い列に並び、入場料を払い、やつのことで見た作品でも実は見えていないもののほうが圧倒的に多い。しかし、「見えないひと」が隣にいるとき、^③ 普段使っている脳の取捨選択センサーがオフになり、わたしたちの視点は文字通り、作品の上を自由にさまよい、細やかな* デイテールに目が留まる。おかげで「いままで見えなかったものが急に見えた」というこの松坂屋美術館の男性のような体験が起こる。白鳥さんにとってもこのできごとは、「見る」という概念を揺るがす画期的な体験となった。

「それまでは、たとえ目が見えていても、ちゃんと見る気にならないと見えならしいというのは知識としては知っていたわけ。それは物の見方とか注意力の話かなって思うんだけど、実感として自分の中にはなかった。だから、見えるひとは見たらなんでもわかるだろうと思ってた。だからこのとき、なあんだ、見えるひとも実はちゃんと見えてないんだとわかると、いろんなことが気楽になったよね」

この話を聞いたとき、なるほど、なんて面白いんだろう！と **A** を打った。同時に、こんな風に白鳥さんを開眼させた作品、「湖に見える原っぱ」とは、いったいどんな作品なのだろうと気になってしょうがなくなった。二〇年以上前の話なので、確認するのは容易ではなさそうだが、まずはできるところから調べてみることにした。

白鳥さんの記憶を改めてたどると、場所は間違いなく松坂屋美術館で、時期としては美術館めぐりを始めてすぐのころだという。というのは、九六年か九七年だろう。

シンプルに* ググってみたところ、「印象派・後期印象派展」という展覧会が一九九六年二〜三月に松坂屋美術館に巡回したことがわかった。今度は松坂屋美術館に絞って展覧会記録を調べてみると、その前後にはかの印象派関連の展覧会が行われていない。よし、ビンゴ！

次に図録を手に入れるべく^b **ケンサク**を続けた。再びシンプルにググってみたところ、* ヤフオクで図録が売られていた。便利な世の中だなあ！と思いつながら、一〇〇円で落札。

届くなり、ページをめくった。原っぱに見える湖ねえ。そんなものは、そうそう転がっているわけがないから、見ればすぐにわかるはずだ。

ページをめくると、すぐにこれという一枚があつた。フィンセント・ファン・ゴッホの《アルルの公園、陽のあたる芝生》（一八八八年）。よし、ちゃんと黄色い点々もある。

念のためほかのページも見ていくと、あれ、ううむ、と戸惑った。原っぱのような湖のような……という絵が実はいくつもあるではないか。アルフレッド・シスレーの《オルヴァンヌ河岸の柳》（一八八三年）にカミーユ・ピサロの《ルーヴシエンヌ》（一八七〇年）も怪しい。

すっかり混乱したわたしは、後日、白鳥さんと*マイティと一緒に図録を見返した。すると、マイティはわたしがピックアップした作品を見ながら、「えー、これ？ 全然、湖に見えないよー」と図録を取り上げ、別のページを開きながら、「ねえ、これじゃない？ ほら、湖に見えない？」と言う。それは、完全にノーマークの作品だった。

なんだ、なんだ？ どういうことなんだ？

④なぜここまで混乱するのか。その原因を紐解く鍵は、「印象派」にある。

そもそも印象派は、人間の視覚で感知した「光」を絵の具とキャンバスで再現するという新しい試みにより生まれた。多くのひとが印象派の絵画を愛するが、その魅力を改めて考えると、自然な光を感じさせる透明感、そして複雑な色彩が織りなす鮮やかさにひととは惹かれるのではないだろうか。

この光を描く技術こそが、印象派が起こした革命である。いま見ると当たり前にも見える絵の具で「光」を再現する技術は、感性だけではなく、科学的な探求の果てに生まれたものだ。

そもそも絵の具というのは、混ぜれば混ぜるほど、色が濁るという物質的な性質がある。複雑な色を作ろうと絵の具をどんどん混ぜ合わせてしまうと、色は混ぜた分だけ暗くなり、最終的には黒になる。じゃあ、白を混ぜればどうなるかといえ、色味は明るくなるが、透明感はなく、同じように「光」とは遠ざかる。

そう、光は透明なのだ。

そこで編み出されたのが「筆触分割」（色彩分割）という手法だった。印象派の画家たちは、絵の具を混ぜずに、異なる色をそれぞれのまま*ドット状に塗ってみた。すると、お互いの色は濁らないまま明るく軽やかに見えた。これは、たとえ異なる色であっても色同士が近くにあれば、人間の網膜はうつかり一緒に処理してしまう「視覚混合」という現象を利用したものだ。これは現代の印刷技術でも生かされていて、

無数の色を表現するフルカラー印刷でも、実はプリンターでお馴染みの四色の網点を混ぜ合わせて印刷されているにすぎない。

というわけで、印象派の絵はくっきりとした線では描かれておらず、点の集まりや荒々しい筆跡がそのまま残されている。物体としての写真性よりもその瞬間の「光」と「印象」を優先した結果だ。印象派の絵が初めて世に出たとき、ビシツとした線と色で仕上がった絵を見慣れていた批評家たちは大きなショックを受け、「描きかけの壁紙以下」と評したと伝えられている。

最終的に候補として絞り込まれたのは、フィンセント・ファン・ゴッホの《アルルの公園、陽のあたる芝生》、ブランシュ・オシュデ（一八六五～一九四七）の《畑》（一八九〇年頃）、そしてクロード・モネの《洪水》（一八八一年）の三作である。

《洪水》はマイティのチョイスだが、わたしはこれではないと確信していた。なにしろ《洪水》は増水したセーヌ川を描いたもので「水」そのものだし、原っぱと呼ぶには全体的に印象が暗すぎる。

わたしたち三人は、図録の前に、ああこうだと議論した。しかし、すべては憶測にすぎず、決着がつくはずもない。なにしろ唯一答えを知っている白鳥さんは「そう、これだったよ!」と断言することはできない。そして、松坂屋美術館の男性が誰だったかはわからない。

このやりとりの直後、わたしは奈良県立図書情報館で講演をすることになっていた。テーマはまさに白鳥さんとの美術鑑賞体験である。よし、こうなったら大勢のひとの力、「*集合知」を利用して決着をつけようと思いついた。その日、会場のプロジェクターに三枚の写真を順番に映し、約四〇人の来場者に「どれが原っぱに見える湖だと思えますか」と質問し、挙手してもらった。

答えは、見事にバラけた。意外なことに「洪水」を選んだひとが多かった。

マイティは嬉しそうに言う。

「⑤実は誰も答えがわからないっていうのが、この話のいいところだね」

うん、そうなのかもしれない。

（川内有緒『目の見えない白鳥さんとアートを見に行く』集英社インターナショナル）

*注 アテンド⇨接待すること、世話すること。

白鳥さん⇨白鳥建二さん、全盲。年に何十回も美術館に通う。

バイアス⇨偏り、偏向。

エコノミー⇨節約。

ディテール⇨詳細、細部。

ググってみた⇨グーグルで調べてみた、という意味。

ヤフオク⇨ヤフーオークションの略。

マイティ⇨筆者の友人。水戸芸術館教育プログラムのコーディネーターとして働いている。

ドット⇨小さな丸い点。

集合知⇨多くの人の知性を集めると、より優れた知性が登場する。

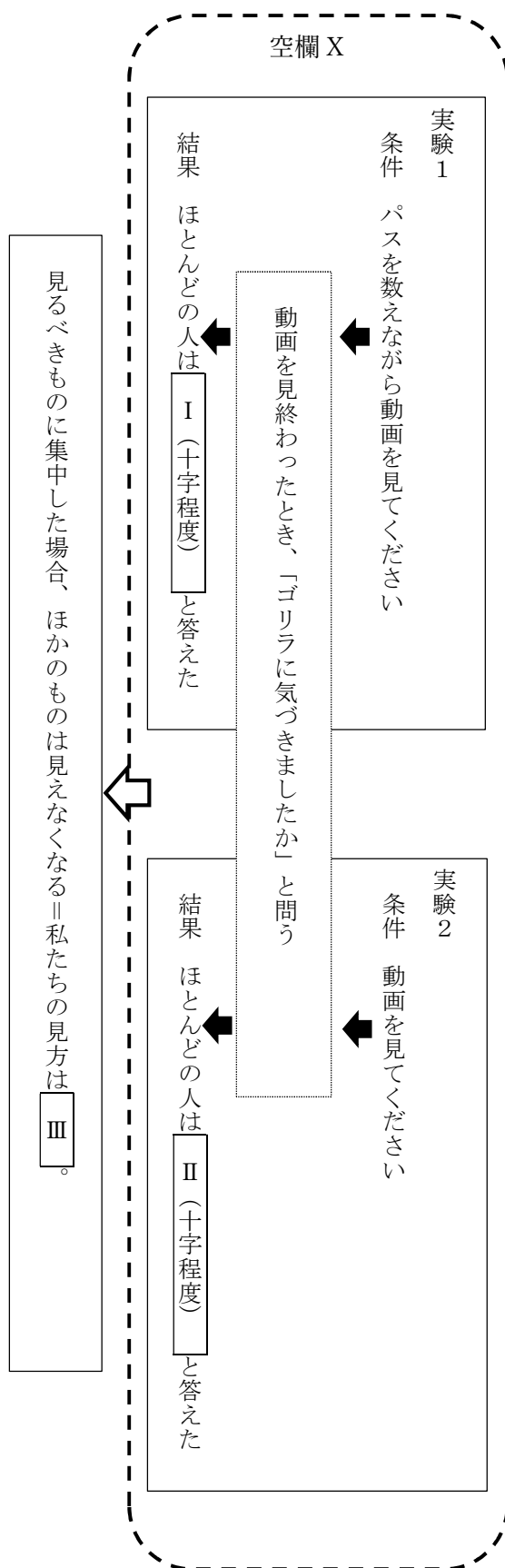
問一 a 、 b のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 A に体の一部を表す言葉を入れ、慣用句を完成させなさい。

問三 ———線部①とありますが、男性スタッフがこの絵を湖だと決めつけていた理由を説明した次の文の空欄に、二十字程度の適切な言葉を入れなさい。

男性にとって「黄色い点々」という情報は であつたから。

問四 X には、――線部②『ゴリラ』の実験』の様子が続きます。その『ゴリラ』の実験』についてまとめた次の図の I、II に、それぞれ十字程度の適切な言葉を考えて入れなさい。また、III には、この実験結果を踏まえた、私たちにとっての「見るこ」とを表現する言葉が入ります。その言葉を本文中から一語で抜き出して答えなさい。



問五 ―線部③とありますが、これが働いたとき、私たちに何をもちたらずと筆者は述べていますか。本文中から十字程度で抜き出して答えなさい。

問六 ―線部④について、後の問いに答えなさい。

- (1) 「混乱」を招く「印象派」の特徴を、わかりやすく説明しなさい。
- (2) このような特徴を否定的に見る人々は、「印象派」の絵をどのようにとらえたと述べられていますか。本文中から十字以内で抜き出して答えなさい。

問七 —— 線部⑤とありますが、このことに関して生徒が意見を交わしました。このうち本文の内容として適切でないものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 芸術ってそもそも人によって様々なとらえ方をするものだから、一つに限定される結論は好ましくないよね。

イ そもそも、候補としてあげた絵の中に、今探しているものがあるかどうかも定かではないよね。

ウ そうだね。それ以上に、話題に上っている絵の存在自体についても、不確かだと言えるんじゃないの。

エ 他人の見方に耳を傾けたり、自分の意見を述べたりする議論の面白さは、答えが決まっていればできないもんね。

オ なるほど。そう考えれば、今回の問題ってできるだけ早く結論を得ようとする現代の問題にも通じているかもしれないね。

問八 本文の説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 筆者は自分自身の体験や見聞に基づいて文章を展開している。脳の機能や印象派絵画がもたらす影響などに触れながら、芸術の原点とも言える問題に到達している。

イ 筆者はかねてより抱いていた芸術に対する疑問を解明している。印象派絵画が否定的に見られる背景に私たちの脳の働きがあることを突き止め、新しい芸術観を構築した。

ウ 筆者は歴史的な経緯に即して持論を説いている。芸術的手法の変化に対し、作品のみならず脳の認知機能までが大きく様変わりした事実を、現代特有の現象として示した。

エ 筆者は著名な人物の言葉を借りて自身の論を補強している。芸術家はもちろん、哲学者の説明を挿入することで、人間の持つ諸機能についての斬新な見方を説いている。

オ 筆者は平易な言葉を用いながら、自分の思いをわかりやすく述べている。難解とされる印象派絵画の魅力を独自の視点で語りつつ、自身でも気づかなかった発見をした。

二

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。（設問の都合上、本文の表記を一部変更しているところがあります。）

ある時、鶴、孔雀と*じゅんじゅく 淳熟して遊びけるに、孔雀、我が身を賞めて申しけるは、「①世の中に、我が翼に似たるはあらじ。絵にかくとも及びがたし。光は玉にも勝りつべし」などと誇りければ、②鶴、答へて曰く、「*御辺の自慢、最も*予議せぬ事にて候ふ。な空を翔けるものの中に、御辺に並びて、a果報めでたきものは候ふまじ。但し、御身に欠けたる事、二つ候ふ。一つには、御足元汚げなるは、③錦を着て、足に泥を付けたるが如し。て二つには、鳥といふは、高く飛ぶをもつて、その*徳とす。御辺は飛ぶといへども、遠く行かず。これを思へば、翼は鳥にして、その身は獣にて、あんなるぞ。少しき徳に誇りて、④おほきなる損をば弁わきまへずや」とぞ、恥を示しける。それよりして、孔雀、わづかに飛び上がるといへども、この事を思ふ時は、翼弱りて、勢ひなし。

その如く、人として、*我が誉れをささぐる時は、人の憎みを蒙りて、果てには、誤りをいひ出さるるものなり。*我慢の人たりといへども、道理をもつて、その身を諫めば、用ひざる顔をするといふとも、心には、「おごりにも」と思ひて、聊いささかも謙へりくだる心あるべし。

（『伊曾保物語』より）

*注 淳熟＝意見が一致し、友情で結ばれること。

御辺＝あなた。

予議せぬ＝否定しようとも思わない。

徳＝天性。または、能力、長所。

我が誉れをささぐる＝自分の長所を誇る。

我慢＝高慢。

問一 〓 線部 a、b の本文における意味として最も適切なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

a 「果報めでたきもの」

b 「げにも」

- | | |
|----------------|------------------|
| ア 幸せに生まれついた者 | ア どういう意味なのか |
| イ 変わった性質を持った者 | イ まったくの言いがかりだ |
| ウ よい知らせを受け取った者 | ウ そのことは役に立つのだろうか |
| エ すばらしく口の立つ者 | エ どうしても納得できない |
| オ 周囲の目をひきつける者 | オ なるほどその通りだ |

問二 〓 線部①とありますが、これは孔雀の翼のどのような点を言っているのですか。二十字以内で答えなさい。

問三 〓 線部②について、後の問いに答えなさい。

- (1) これ以降、鶴は孔雀に対する答えをどのように展開していますか。その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 孔雀の言うことは認めつつ、その生意気な態度を戒めようとして展開している。
- イ 孔雀の言葉に含まれる矛盾を、直接的な言葉で伝えるように展開している。
- ウ 孔雀の主張をいったんは認めた上で、自分の考えを述べる形で展開している。
- エ 孔雀の言葉が誤っていることを、孔雀自身に気づかせようとして展開している。
- オ 孔雀の言うことに一定の理解を示し、孔雀に共感する形で展開している。

- (2) 孔雀は、鶴の言葉をどのように受け止めていますか。そのことが最もよく表れている部分を、本文中から二十字以内で抜き出しなさい。

問四 ―― 線部③とありますが、このように言うことで、鶴は孔雀にどのようなことを指摘しているのですか、わかりやすく説明しなさい。

問五 ―― 線部④とは、具体的に孔雀のどういう点を指して言っているのですか、二十字以内で答えなさい。

問六 孔雀と鶴のエピソードを述べることで、作者はどのようなことを言おうとしているのかという問いに、五人の生徒たちが答えました。本文の内容に合うものとして最も適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 人の場合は、たとえ高慢な態度で指摘していたとしても、根拠を示していれば、相手は嫌な顔をしつつも、納得してくれるものだよ。
でも、高慢な態度でいると人に憎まれるだけでなく、誹謗中傷ひぼうされることもあるので、普段から謙虚な態度で接するほうがいいと言っているんじゃないかな。

イ 私は、相手が高慢な人でも、道理を持ってその人の欠点を指摘すると、聞いていないようでも、謙虚な気持ちは心に芽生えるものだと言っていると思うな。ただ、自慢話をするとな人の恨みを買って、正しくないことまで言われることもあるから、控えるのが身のためだとも言っているよね。

ウ 僕は、高慢な態度で相手の欠点を指摘すると、その指摘が理にかなっていることなら余計に、聞き入れようとする心が持てなくなってしまうのが人だと思うよ。さらに、自慢話をするだけでも相手に憎まれて、悪く言われることもあるので、自慢話はしてはいけないと言っていると思うね。

エ そもそも、高慢な人というのは、その態度がいけないと分かっているにもかかわらず改められないものなんだよ。だからと言って、自慢話をするとなから恨まれるだけでなく、あることないこと噂うわさされることもあるので、少しでも反省したならば、態度を改善すべきだと言っているんだよ。

オ そうだね。相手が高慢な人の場合、注意するときは論理立てて説明しないと、その真意を疑われるだけでなく、話を聞いてすらもらえなくなるんだよね。さらに、自慢話を指摘すると相手の反感を買って、逆上されることもあるので、注意する際は相手の様子をよく見る必要があると言っていると思うな。

問題は次のページに続きます。

三

次の漢文を読んで、後の問いに答えなさい。(設問の都合上、本文の表記を一部変更し、また訓点を省いた箇所があります。)

*

景公之時、雨雪三日而不霽。公被狐白之裘、^①坐于堂側階。晏

子入見、立有間。公曰、「怪哉。雨雪三日而天不寒。」晏子

対曰、「天不寒乎。」公笑。晏子曰、「嬰聞、古賢君飽而知人

之飢、温而知人之寒、逸而知人之勞。今君不知也。」公曰、

「善。」^②寡人聞命矣。」乃令出裘發粟以与飢寒者。

孔子聞之曰、「^③晏子能明其所欲、景公能行其所善

也。」

(「晏子春秋」より)

＊注 景公〓中国春秋時代、斉の君主。

晏子〓斉の宰相。

狐白之裘〓狐の白毛を集めて作った衣。

嬰〓晏子の自称。

飽〓満腹になること。

逸〓気楽にのんびりと楽しむこと。

寡人〓諸侯の自称のことば。

出裘〓毛皮を脱ぐ。

発粟〓粟は五穀の総称。蔵米を出すこと。

善〓心になう。

問一 〓 線部 a、b の読み方を、送り仮名も含めて現代仮名遣いで答えなさい。

問二 〓 線部①は「堂の側階に坐す」と読みます。これに従って返り点を付けなさい。ただし、送り仮名は不要です。

問三 — 線部②について、後の問いに答えなさい。

(1) 「寡人聞命矣」とありますが、これについての説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「命」は、「いいつけ」という意味である。この言葉があることで、晏子と景公とが対等の立場にあることがうかがえる。

イ 「命」は、「大切な言葉」という意味である。ここでは晏子の言葉をしっかりと受け止めたということを言い表している。

ウ 「命」は、「さだめ」という意味である。ここに至って景公がようやく自分自身の運命を悟ったということを表している。

エ 「命」は、「いのち」という意味である。一生を懸け取り組むべきことを教えてくれた晏子に対する景公の感謝が述べられている。

オ 「命」は、「目標」という意味である。晏子の導きによって目指すところが明らかになった景公の喜びが示されている。

(2) この後、景公は具体的にどのような行動を取りましたか、三十五字以内で答えなさい。

問四 — 線部③とありますが、孔子はこの話を聞いて、どのような評価を下していますか。その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 晏子は君主に対する発言を控えるべきであり、景公も臣下である晏子の横柄な言葉は退ける方がよいと、両者ともに高い評価を下していない。

イ 適切な助言をする晏子を褒めたたえているが、晏子に従うだけで自分では何も判断できない景公は君主の資質に欠けると評価している。

ウ 立場をわきまえることなく思ったことを口にしてしまう晏子と比較して、じっくりと考えて行動しようとする景公の方を高く評価している。

エ 自分自身の判断を明確に口にするのできる晏子と、正しいと思ったことを実行に移すことのできる景公とを、ともに高く評価している。

オ 君主に対しても堂々と進言できる晏子は評価できるものの、しぶしぶ晏子の言葉に応じた景公はどのように評価してよいのかわからない。

問五 本文において、晏子はどのように景公に接していますか。その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 昔の賢君の行いをあげながら、それとは対照的な景公の言動について景公自身に考えさせようとしている。

イ 景公と同じような行動を取った君主がどのような結果に陥ったかを説いて、景公の考え方を改めさせようとしている。

ウ 昔の賢君が臣下の言葉を素直に聞き入れたことで危機を逃れた事象を取り上げ、自身の思い通りにしようとしている。

エ 君主を正しい方向に導くという強い使命感を持ち、景公を圧倒するほどの強い語気で説得しようとしている。

オ 景公の言葉に嫌気を覚えて、君主の器ではないと感じながらも、穏やかな言葉を用いて諭そうとしている。

問六 ……線部とありますが、この発言について、ある生徒が次のように発表しました。

い。ただし、Xは二十字以内、Yは三十字以内とします。

X、Yにそれぞれ適切な言葉を入れなさ

く発表

僕は、この言葉に込められた景公の真意が気になりました。果たして、この言葉は景公の本心なのでしょう。それならば、景公を愚かだと言わざるを得ません。そのような景公を晏子は導かなければならないでしょう。とすれば、後の「公笑」の「笑い」とは、

X (二十字以内) となります。でも、もしもこの言葉が晏子を試すものだったとすれば、「公笑」の「笑い」も一変

Y (三十字以内) が表れているのではないかと思うのです。

します。この「笑い」には景公の

(このページで、問題は終わりです。)